

研究ノート

## 中山間地域等における精神保健福祉士の訪問型支援の重要性に関する一考察 —文献研究から考える課題—

高木 健志

Takeshi TAKAKI

本稿は、中山間地域等に関する定義の確認、精神科訪問看護に関する文献の検討、中山間地域等を対象とした精神科訪問看護の文献の検討、精神保健福祉士と精神科訪問看護に関する文献の検討を中心に行った。

中山間地域等について、農林水産省による中山間地域等に関する定義と、社会学の領域における知見について整理した。また、精神科訪問看護については、看護師による文献があること、中山間地域等を対象とした精神科訪問看護に関する先行研究では実践に関する研究があり、理論的な研究の必要性について見出された。

今後は、地理的な条件が不利と見られることの多い中山間地域等における精神保健福祉士による訪問型の相談支援についての調査に取り組んでいく必要が見出された。

キーワード：中山間地域等、精神保健福祉士、精神科訪問看護

### はじめに

現在、わが国の社会状況は、少子高齢社会から、さらに、人口の流出と集中、人口減と人口に関する課題にも社会の変化に伴って変化がみられる。

東京、大阪、名古屋等の大都市への人口の集中と、とくに地方における人口減少は大きな課題である。なかでも、地方における人口減少問題については、これは、これまでも“限界集落”ということばが生み出されるなどして社会においても課題として取り上げられてきた。その一方、近年では、地域再生、移住、都会から地方への人口移動や、地方自治体では地域おこし協力隊など関心が持たれている。地方では、高齢や地理的条件によって日常品の買い物が難しい住民を買い物難民と表現し、その状況に対して移動販売や通信販売などが講じられている。地方では、商店が構えて

いるのではなく、商店の側が地域へ出向いているのである。

本稿では、中山間過疎地域等に住み続ける精神障害を抱えつつ生活している利用者への生活支援について検討していくために、精神保健福祉士と精神科訪問看護との関連に着目し、その可能性について検討し、また中山間地域等について、他領域における知見を得ながら整理を試みたので報告する。

### I. 中山間地域等に関する概念整理

まず、本稿の中心的環境である中山間地域等について、確認していきたい。中山間地域等は、農林水産省の農業地域類型区分による山間農業地域、中間農業地域であり、農林水産省の定義では、「平野の外縁部から山間地（農林水産省

2015) 」とされる。さらに、細やかには、①「過疎地域自立促進特別措置法」に基づき公示された過疎地域及び過疎地域とみなされる区域、②「特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律」に基づき公示された特定農山村地域、③「山村振興法」に基づき公示された振興山村地域、④「半島振興法」に基づき公示された半島振興対策実施地域、⑤「離島振興法」に基づき公示された離島振興対策実施地域、とされている。行政における中山間地域等についての分類は、行政サービスを考慮、提供していくには有用である一方、人の生活という側面からは、これらの定義だけでは見えにくい。つまり、中山間地域等に関する定義については、制度的な枠組みによる整理を用いられていることが多く、本研究の中心的関心である生活という観点からの整理に用いるには乖離する印象が否めない。

人の生活という観点から、中山間地域等について、もう少し理解をすすめておきたい。高野は過疎地域に関して「単に人口が少ない地域 (sparsely populated area) というよりも、短期間に急激な人口減少に見舞われ、さまざまな生活課題が生起している状態 (depopulated area) (高野 2014 : 128) 」としている。たとえば、急激な人口の減少によって、その村や集落がそれまで継承し続けてきた文化や伝統が失われていくということはわが国にとって大変な社会的な損失といえよう。中山間地域等という概念について鈴木 (2014) は「中間農業地域と山間農業地域のふたつを合わせた表現 (2014 : 1) 」とし、さらに「農業が展開される上での条件不利地域の代名詞 (2014 : 1) 」としている。また過疎農山村をフィールドとして研究した山本は、過疎地域における今日的課題として、「( i ) なぜ、過疎地域から人々が出て行くのか? (2013 : 9) 」という以前の中心的課題に加えて、次の二点を示している。すなわち、「( ii ) 過疎地域で人々はいかに暮らして (残って) いるのか?」「( iii ) 何故、過疎地域に人々は入ってくるのか? (2013 : 9) 」ということである。なかでも、山本は、

( ii ) の命題にそった研究を「定住人口論的過疎研究 (2013 : 9) 」、「( iii ) の命題にそった研究を「流入人口論的過疎研究 (2013 : 9) 」とし、併せて「生活人口論的過疎研究 (2013 : 9) 」とされている。

本研究では、中山間地域等であっても、住み続ける精神障害者へ安定した生活のために、訪問型の支援にできることは何なのか、という問から発せられていることから考えれば、「定住人口論的」研究ということになる。

また、とりわけ、これまで、中山間地域等に関する研究では、地域そのものの存続に関する研究や高齢者の生活に焦点を当てた研究は多く見られる。そこで、中山間地域等で生活する障害者、特に精神障害者への支援としての精神科訪問看護に関する研究について次項以後検討を行っていった。

## II. 精神科訪問看護の状況

### II-1 精神科訪問看護に関する先行研究

論文検索エンジンCiniiを活用して先行研究の検討を行っていった。「精神科訪問看護」というワードでは、223編のヒットがあった (2015年11月30日検索)。なかでも、長期入院精神障害者の地域移行支援に関する内容を取り上げている精神科訪問看護の論文二編を取り上げ、検討していった。

1993年の久山による「長期入院を経て退院する精神障害者への訪問看護」がある。同論文は、事例検討を中心にすすめながら、精神科訪問看護においてクライアントと家族との双方へのサポートと、その双方へのサポートの結果、家族間のサポート力が向上していくことを明らかにしている。なかでも、長期入院を経験したクライアントの退院後の地域生活における精神科訪問看護の役割として、「社会資源をどう活用し連携するかということも訪問看護の重要な課題 (久山 1993 : 95) 」を指摘しており、精神科訪問看護の実践においては、単なるフィジカルケアだけでなく、ソーシャルな視点からの具体的支援も必要とされることがわかる。

福原・藤野・脇崎（2013）による「精神科訪問看護師が抱く精神科長期入院患者の退院促進および地域生活継続のための看護実践上の課題」では精神科長期入院患者の退院促進および地域生活継続のための看護実践に関する知見を得るために、精神科訪問看護師を対象に聞き取り調査を行っている。同論文では、病棟看護師が長期入院患者の退院支援に積極的に取り組む契機として「実際に、訪問看護を体験することによって地域で暮らす患者の生の生活が把握でき、現実的な退院指導の指標を持ちながら、退院に向けてのセルフケア援助を行うことが可能（2013：47）」と指摘している。

長期入院精神障害者を対象とした精神科訪問看護についての看護師を中心とした研究では、精神科訪問看護の果たす重要性が高まっていることがうかがえる。精神科訪問看護に関する先行研究では、実践報告が中心であり、このことから実践報告からの理論的な探究も重要な局面に入りつつあるということができよう。

## II-2. 中山間地域等における精神科訪問看護に関する先行研究について

次に、中山間地域等をその対象とした精神科訪問看護に関する先行研究について検討を行った。

鈴木（2012）は、名寄市近隣町村で精神科訪問看護を実施している医療機関のスタッフを対象に、特に精神科訪問看護における実施された内容と利用者との属性との関連から検討を行っている。鈴木は、名寄市と近隣町村を過疎の地域として取り上げており、なかでも、地域の交通事情等の理由からデイケア等の定期利用登録ができない利用者にとっては、精神科訪問看護が「必要な医療と生活支援を実施している（2012：42）」ことを明らかにしている。また、一方で、同研究における対象範囲が広範囲であることから、「市外の場合には使用頻度の増加が難しい（2012：42）」という現実的課題もあわせて示されている。

また豊島・鷺尾（2012）は、九州地方における一般の訪問看護施設を対象に、精神科訪問看護の実施率について調査を行っている。同論文で

は、回答のあった一般施設のうち、精神科訪問看護を実施しているのは43.8%であることが報告されている。精神科訪問看護を実施していない施設の管理者への精神科訪問看護を実施しない理由についての項目では、「精神科医師や精神科看護の経験者がいないことや精神科看護のむずかしさ等（2012：111）」が挙げられていることが報告されている。

鈴木（2012）の指摘では、過疎地域等に暮らす精神障害者にとっては精神科訪問看護が生活の安定化のためには欠かせないことが明らかにされている。さらに、一つの事業所が広範囲をカバーすることで、地方であっても中心部における支援のための訪問回数は距離的要因等から増やすことができても、いわば地方の地方部となると訪問の回数を増やそうとしても難しさがあると考えられる。地方のなかにも、また中心部と地方部とでは、困難さが生じていると考えられるである。豊島・鷺尾（2012）の調査では、地域偏在等の状況が起こりうる可能性が提起されている。

これらの知見から、精神科病院やクリニックが持つ訪問看護ステーションだけでカバーできない状況も起こりうることを考えれば、より充実した体制の構築が急がれるところである。

## II-3. 中山間地域等における精神科訪問看護における精神保健福祉士の重要性に関する状況

精神科訪問看護における精神保健福祉士の役割について診療報酬においては、2012（平成24）年度の診療報酬体系の見直しのなかで、精神科訪問看護基本療養費よりも、精神保健福祉士が同行する精神科訪問看護の精神訪問看護・指導料は診療報酬上高い設定となっている。さらに、2014（平成26）年度の同改定では、精神科重症患者早期集中支援管理料のチームの職種の一つとして精神保健福祉士（常勤）があげられている。このように、精神科訪問看護において、特に精神保健福祉士の果たす役割が期待される状況にある。

実践現場では、すでに、多くの精神科医療機関

やクリニックを中心に精神科訪問看護ステーションなどで精神保健福祉士が、精神科訪問看護に従事している。筆者も、精神科医療機関に勤務していた頃には、退院して地域で生活している利用者宅へ看護師らとともに訪問を行っていた経験がある。その時の経験では、看護師が体調面でのアセスメントや看護を実践し、精神科ソーシャルワーカーであった筆者は、地域で暮らすという日常生活の面における相談援助を行っていた。しかし、当時は、精神科訪問看護について学ぶ機会があまりなく、その経験も、本研究の着想のきっかけの一つとなっている。

さて、論文検索Ciniiについて、“精神科訪問看護+精神保健福祉士”と入力し論文検索すると実践報告がみあたり、実践において示唆に富む内容であり、さらにこれから中山間地域等における訪問型の支援における精神保健福祉士の役割や機能という観点から、実践からの理論化という課題を見いだせると考えられた。現時点では検索のヒット数が少ないものの、今後実践や研究ということが蓄積されていく分野であろう。

中山間過疎地域等に暮らしながらも、「生の営みの困難」（窪田2013：7）とともに生きる市民を支えていくことがソーシャルワーカーのひとつの大きな役割である。そこには、地理的条件も含みつつも、ともにどのように創造していくのが重要となる。

### Ⅲ. 本稿から考える今後の課題

本稿は、中山間地域等に関する定義の確認、精神科訪問看護に関する文献の検討、中山間地域等を対象とした精神科訪問看護の文献の検討、精神保健福祉士と精神科訪問看護に関する文献の検討を中心に行ってきた。中山間地域等について、社会学において先駆的な研究があること、農林水産省による中山間地域等に関する定義があることについて整理した。また、精神科訪問看護については、看護師による文献が見あたること、中山間地域等を対象とした精神科訪問看護に関する先行研究では実践に関する研究があり、これから、理論

的な研究についても必要性が見出された。なかでも、中山間地域等における精神科訪問看護において、精神保健福祉士が果たす役割は大きいと考えられ、今後は、地理的な条件が不利と見られることの多い中山間地域等における精神保健福祉士による訪問型の相談支援についての調査に取り組んでいく必要が見出された。

また、さらに、この検討課題を発展させていくための要点として、高木は次のことを挙げている（2015：178-79）。すなわち、精神科訪問看護における精神保健福祉士の果たす役割について、過疎地域等における精神保健福祉士による訪問相談支援のエビデンス蓄積の重要性である。

そこで、今後も継続して、中山間地域等における訪問型の相談支援についての調査研究に取り組む必要があると考える。

### おわりに

中山間地域等における生活を支えるということとは、文字通り、その市民が、住み慣れた場所で暮らし続けたいという願いを実現させることのできる社会を維持し続けることなのではないかと考えている。そして、地理的に不利だと考えられる状況であったとしても、そこで暮らしたいというひとり一人の市民のおもいにこたえることのできる社会を維持し続けていくための方法をこれからも考え続けていかなければならない。

なお、本研究はJSPS科研費15K13089の助成を受けたものです。

### 引用・参考資料

福原百合・藤野成美・脇崎裕子（2013）「精神科訪問看護師が抱く精神科長期入院患者の退院促進および地域生活継続のための看護実践上の課題」『国際医療福祉大学学会誌』18（2），36-49.

窪田暁子（2013）『福祉援助の臨床——共感する他者として』誠信書房.

久山とも子（1993）「長期入院を経て退院する精

神障害者への訪問看護（社会科学編）」

- 『千葉県立衛生短期大学紀要』12(7), 87—96.
- 農林水産省農村振興局農村政策部地域振興課  
(2015) 「中山間地域等とは」『農林水産省ウェブサイト』[[http://www.maff.go.jp/j/nousin/tyusan/siharai\\_seido/s\\_about/cyusan/](http://www.maff.go.jp/j/nousin/tyusan/siharai_seido/s_about/cyusan/)]  
(2015.12.14.検索).
- 鈴木敦子(2012) 「当院における精神科訪問看護の利用状況と支援内容——デイケア利用状況、地域特性による比較」『名寄市立病院医誌』20(1), 38—43.
- 鈴木康夫(2014) 『中山間地域の再編成』成文堂.
- 高野和良(2014) 「第Ⅱ部 対象 31過疎地域（中山間地域・限界集落——以下祖地域の生活支援と地域再生）」岩崎晋也・岩間伸之・原田正樹編『社会福祉研究のフロンティア——The Frontiers of the Study on Social Work and Social Welfare Policy』, 有斐閣.
- 高木健志(2015) 「中山間過疎地域等における精神保健福祉士による相談支援の必要性に関する一考察」『山口県立大学社会福祉学部紀要』21, 171—181.
- 豊島泰子・鷺尾晶一(2012) 「精神科訪問看護の実施に関連する要因の検討——九州地方における調査から」『日本地域看護学会誌』15(2), 107—113.
- 山本 努(2013) 『人口還流（Uターン）と過疎農山村の社会学』学文社.

## A Study on Psychiatry temporary nursing at home in depopulated areas and visit type support by Psychiatric Social Workers

-Problem to think about from a precedent study-

Takeshi TAKAKI

This study went mainly on the examination of documents about the confirmation of the definition about the intermediate and mountainous area, the examination of documents about the psychiatry temporary nursing at home, the examination of documents of the psychiatry temporary nursing at home for the intermediate and mountainous area, mental health welfare person and the psychiatry temporary nursing at home.

About intermediate and mountainous area, I arranged it about there being a definition about there being a pioneer study in sociology, the intermediate and mountainous area by Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries. In addition, about the psychiatry temporary nursing at home, there was a study on practice in the precedent study on psychiatry temporary nursing at home for a thing, the intermediate and mountainous area where the documents by the nurse were found, and the need was found about the theoretical study from now on.

Above all, in psychiatry temporary nursing at home in the intermediate and mountainous area, it was thought that the role that a mental health welfare person achieved was big, and the need that wrestled was found in future by an investigation about the visit-shaped consultation support by the mental health welfare person in the intermediate and mountainous area where there was many that I was seen if a geographical condition was disadvantageous.

Keyword : Depopulated area, Psychiatric Social worker, Visiting Nursing